

(様式 1)

令和6年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県呉羽青少年自然の家 生涯学習・文化財課

2 施設所在地
富山市西金屋字長尾8194

3 施設設置年度
昭和50 年度

4 設置目的
自然環境の中で集団生活を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図る。

5 施設概要
敷地面積：35,024m²
主な施設
・本館：鉄筋コンクリート造り2F 2,983.14m² 宿泊定員200名
・野外設備
グラウンド：約2,500m²
キャンプ場：約3,000m²
林間プレイランド：約3,000m²
三楽池約1,000m²

6 指定管理者
株式会社 東洋サービス北陸

7 指定期間
3 年
令和6年4月1日 ～ 令和9年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R2	R3	R4	R5	R6
6,963	11,123	14,002	15,669	15,048

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R2	R3	R4	R5	R6
1,535	2,710	5,396	7,809	7,136

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R2	R3	R4	R5	R6
10,477	10,477	10,477	10,477	10,477

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・令和6年度は、前年度に比べ、総利用者数で621名の減という結果になった。その原因として考えられるのは、受託事業の減少と、大学生、その他一般の利用減少が考えられる。前年度には、大学生の単発の大型利用があったので、その分が表れてきていることが想定でき、減少については誤差の範囲内として捉えている。

・利用の中心といえる小学校や青少年団体は増加しているので、今後も継続して利用していただけるよう働きかけていきたい。

(2) サービス向上に向けた取組み

・令和5年度に引き続き、すべての事業の参加申し込みを、フォーム(Googleフォームを使用)方式にすることで、参加者の申込時の煩雑さを解消した。

・主催事業の事後アンケートや事前健康調査も、フォームで受け付けるようにしたことで、事業参加者の利便性を向上させたり、通信費や用紙代を削減することができた。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・呉羽青少年自然の家公式FacebookやInstagramの活用を継続し、主催事業の告知をはじめ、活動プログラムや所周辺の様子などを発信した。

・徐々にフォロワー数も増加してきており、主催事業参加者は、リピーターが増加傾向にあり、SNS効果が顕著に表れてきている。

・令和7年度は、施設紹介や主催行事の模様、または所からのメッセージを動画で紹介するYouTubeの開設も予定している。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	利用団体に対してのアンケート実施
回答者数	宿泊利用団体数 458団体
結果	活動評価(4.7) 施設評価(4.6) 食事評価(4.5) 各項目5段階評価平均値
結果を踏まえた改善事項	・浴室脱衣場にエアコンがないことを指摘する意見があり、利用に際してできるだけ不快感を与えないよう、目に見えていないところのカビの除去やカビ発生備品を撤去した。 ・トイレの水圧が弱いという意見が複数あり、フラッシュ式のトイレをタンク式に更新した。

② その他利用者の声を反映させる取組み

・所員が利用者目線に立って、各設備や備品の状態を確認し、違和感や不快感を持たれないよう、事前のチェックや修繕を徹底して行う。

③ 主な苦情と対応

・破けている布団の苦情に対しては所員で修繕や汚れの除去を行ったりしている。

(5) 個人情報保護の取組み

・利用申し込み書や名簿については、利用終了後にファイリングを行って所定の書架に収めている。

・撮影に対する許可については、利用申込時に確認を取り、公開する場合は利用者の許可をもらっている。

(6) 関係団体との連携

・共催事業として立山荘と連携した「呉羽と立山いいとこどり」や悠久の森実行委員会と連携した「森であそぼう」を実施している。

(7) 施設・設備の維持管理

・施設や設備は開所して50年経っているので、経年劣化は否めない状態となっているが、清掃や修繕をしっかりと行い、利用者が気持ちよく使えるようにしている。
・備品の中には部品がなく修繕できない物(特に調理器具)もあるので、今後も優先順位をつけて計画的に更新していく必要がある。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

・年に2回の防火訓練の実施により、全職員が非常時においてもスムーズに対応できるよう行動レベルの向上を図っている。
・消防署員の指導による救命救急講習を年1回実施している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12回
有	6回
無	
無	

【トラブルの具体的内容と対応】

特になし

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

先人の方々が開発・製作されてきた竹製の遊具については、毎年施設管理員を中心に竹を更新して維持をしているが、管理員の高齢化や技術不足などが要因となり、今後継続していくことが難しくなっている。今後においてはこういったプログラムを存続させるのか、別の新たなものを構築していくのかを検討すべき時期に来ていると考える。